

和地ひとみレポート No.206

新学校給食センターの調理配膳業務を委託する事業者決定

新学校給食センターでの配膳業務は民間に委託

■プロポーザル方式で委託業者を選定

…来年度から稼働が予定されている新学校給食センター。この新学校給食センターができることにより、現在稼働している2つの学校給食センターの諸課題（衛生面、調理器具が整っていないためにメニューが限定されている、アレルギー対応ができていない等）が解決されることのほかに、新たに導入されるのが配膳業務の民間委託です。市は来年度4月からの稼働に先駆け、新学校給食センターでのオペレーションの確認などを行うために今年度中に実際の調理場において、委託業者が調理の試行を行うスケジュールを立てています。そのスケジュールに合わせ、市は「東大和市新学校給食センター調理配膳業務委託候補者選定委員会」（委員：副市長、教育長、企画財政部長、総務部長、子ども生活部長、学校教育部長、学校教育部参事兼指導室長）を設置し、今年度4月より配膳業務委託事業者の選定を開始。このたび、委託する民間業者を選定しました。

…今回の選定は公募型プロポーザル方式で実施。4月28日の締め切りまでに、3社から申し込みがあったとのこと。その後、下記の流れで業者の選定を進め、7月19日に委託業者の最終決定がなされ、このたび公表されました。

【審査の流れ】

第1次審査(書類審査)

第2次審査①(現地視察)

第1次審査通過提案者について、現在運営している学校給食センターの現地視察を実施。(出席者：委員、市栄養士2名。内容：施設内見学、試食、質疑応答)

第2次審査②(現地視察、プレゼンテーション、ヒアリング)

【委託業者】株式会社 東洋食品

【選定理由】

株式会社 東洋食品については、学校給食に係る事業を主としており、企業理念、実績、人員、事業協力、安全・衛生管理など全体的に良好であった。

■評価された主な項目

- (1)安全で安心な学校給食、魅力的な学校給食を提供するという東大和市の学校給食の基本理念を理解していた。
- (2)経営状況は安定しており、計画的な人材育成方針について説明があった。
- (3)複層階の学校給食センターでの業務責任者経験のある者を新学校給食センターの業務責任者として配置を予定しているなど、具体的な人員配置の提案があった。また、休暇等に備えパート従業員の体制に余裕をもたせる計画であった。



- (4)東大和市の学校給食の基本方針である地場野菜の使用、手作り給食の調理及び食育について、積極的に対応するとし、その対応策が具体的であった。
- (5)安全・衛生管理について、専門家による専門部署を設置しており、当該部署が作成したマニュアルを従業員へ周知を図る方法も確立されていた。
- (6)従業員の処遇について配慮がなされており、労務管理が適切に行われることが期待できる提案があった。
- (7)アレルギー除去食対応について、他自治体の給食センターにおける豊富な実務経験を有し、アレルギー事故を防ぐための具体的な対応策の提案があった。
- (8)市が設定した委託料上限額と比較して見積額が安価であり、その積算根拠について適切な説明がなされた。

【契約期間】5年間

■民間委託になった場合の体制は

…今回、選定された株式会社東洋食品は、1966年創立の企業で、学校給食ではセンターを含め北海道、東北から九州に至るまで1000校、60万食を超える実績を有しているとのこと。都内では狛江市、世田谷区で業務委託を請け負っているとのこと。また、来年度からの民間業務委託により、既存の2つの学校給食センターで配膳業務を行っている市の正職員は異動となりますが、新学校給食センターのセンター長など、配膳業務以外の部分は市の職員が行うとのこと。ただし、配膳業務を行っている株式会社東洋食品の社員、スタッフへの指示や指導については業務委託のため、市の職員が直接行わず、株式会社東洋食品の責任者を通して行うこととなります。

…また、学校給食の献立については、今まで通り都と市の栄養士が立て、そのための食材の調達についても今までと同様に市がおこなうとのこと。配膳業務の委託先である株式会社東洋食品は配膳業務(≒調理など)のみを担当します。(裏面に続く)

■食育の充実に向けて

…現在の学校給食の目的の一つには「食育」が含まれており、文科省も「学校における食育の推進・学校給食の充実」を推し進めています。その背景としては、近年の偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していることを挙げ、また、食を通じて地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要という考えのもと、平成17年に食育基本法を制定。翌平成18年には食育推進基本計画を制定し、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくこととしています。この具体的な取り組みの一つが給食に地域の農林水産物を使用すること。食育基本法に基づく第2次食育推進基本計画（平成23年3月策定）においては、学校給食での地場産物の使用割合を平成27年度までに30%以上とする目標が定められていますが、まだ達成されていない状況です。

■東大和市の状況は

…農業や漁業が盛んな自治体と比較すると東大和市の学校給食で地域の農産物を取り入れることは難しいように感じますが、東京都の中で見れば、子ども達が身近に農業に触れることができるという点では、東大和市は恵まれている環境で、東大和市の教育（≒食育）を特徴づけられる可能性があると思います。以前、私は議会での一般質問で食育について取り上げたことがあります。その際の答弁では東大和市の平成23年度の地場野菜の導入率の実態は重量ベースで4.2%、金額ベースで3.4%とのことでした。また、近隣市の状況については、重量ベースのみで出しているところと、金額ベースのみで出している自治体があるとしながら、重量ベースで出しているところは16%あるいは30%に達しているところもあり、また金額ベースで出しているところでも19%のところを確認しているとのことでした。そして、東大和市としてもさらに拡大に努めるとともに、他市がどういった手法で取り組んでいるかということも研究したいと思っているとのコメントもありました。

…現在、東大和市には学校給食センターが2つあり、各センターで2パターンの献立を毎日作っています。（これは食中毒などのリスクを最小限に抑えるためなどの理由もあるため）よって、市全体としては4つの献立を日々作っており、それに対応する地場野菜の量も献立が違ふことにより分散できます。一方、新学校給食センター稼働後は、市内、全小中学校の学校給食をセンターで作ることになります。新学校給食センターになっても毎日3ライン＝3パターンの献立を作ることになると

することが予想されます。現在、学校給食への野菜供給に協力いただいている農家の皆さんも、新学校給食センター稼働後にどのように対応するのか、作付けをどのようにしたらよいのか等を気にしている状況です。市は、以前の答弁にあったように「地場野菜の使用拡大＝食育の充実向上」を目指しているのなら、これらの協力者とのコミュニケーションを今まで以上に密にするべき。新学校給食センター建設により、厨房施設も充実するのですから、その環境を最大限に活用し、食育の観点からも地場野菜の導入メニューの充実が図れるよう、準備を進めるべきです。

…他の自治体では、市場や一般消費者向けに出せない形や大きさの作物を安価、もしくは無料で学校給食に供給してもらっているところもあります。加工に手間はかかるかもしれませんが、子ども達の食育にも効果があり、野菜を供給している農家の皆さんの充実感にもつながるような方策を研究してほしいと思います。

■目指すは「全国学校給食甲子園」



…毎年、夏に行われる「全国学校給食甲子園」という大会があります。今年も7月1日～8月10日に出場団体の募集を行い開催されています。募集テーマは「地場産物を活かした我が校の自慢料理」。参加応募資格は

学校給食を調理している学校および学校給食センターです。昨年の大会では関東ブロックの特別賞を足立区立第十一中学校が受賞しています。以前の私の一般質問の答弁でも、新学校給食センター稼働後は「全国学校給食甲子園」を目指したいということが市から出てきました。

…東大和市の知名度を上げることを市は目指しているということもあるので、このような大会での入賞を是非目指してほしいと思います。子ども達のことを考え、創意工夫をした給食を提供することは、食育面だけではなく、子ども達の心の充実や地元への愛着、感謝といったことにもつながるとともに、東大和市の知名度アップにもつながるはず。さらには、おいしい給食、生産者への感謝を感じる給食は、現在、約64000kg/年ある東大和市の学校給食の食べ残しの減量にもつながるのではないかと期待します。今回、配膳業務委託業者を決定したことをうけ、今後、市には次の準備ステップを推し進め、施設だけではなく、取り組みについても新たに新学校給食センターの実現を目指してもらいたいと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」
【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『「学校」の外の一般社会で挑戦しよう』とベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102